

令和 4 年 6 月 13 日現在

機関番号：13601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2017～2021

課題番号：17K17780

研究課題名(和文) 信州美術教育の歴史的考察-教師自主研修を通じた美術教育思想の形成と波及について

研究課題名(英文) A Historical Study of Art Education in Shinshu: The Formation and Spread of Art Educational Ideas through Voluntary Teacher Training

研究代表者

大島 賢一(OOSHIMA, Kenichi)

信州大学・学術研究院教育学系・助教

研究者番号：90645615

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 3,100,000円

研究成果の概要(和文)：長野県において戦前開催された美術教員向けの研修会について、明治期には、美術の普及、振興を目的とした上意下達式なものであったのが、大正期ごろから教員による自主的な相互研鑽の場となっていくことを確認した。特に、石井鶴三を講師として開催された講習会について具体的に明らかにすることで、そこに関わった人物などについて明らかにした。また、大正期に開催された長野県内小学校聯合教科研究会の図画手工研究会の検討を通して、美術思想と美術教育思想との関連性についての具体的な検証をおこなった。

研究成果の学術的意義や社会的意義

戦前の美術教師たちがどのように思想形成を行なっていたのか、また、それがどのような人的、文化的資源に基づいてなされたのか、ということをも具体的な事例に基づきながら明らかとしたことで、長野県美術教育史の一面を明らかにした。こうした研究は、今後長野県美術教育を含む教育史について、より立体的な解明を行うための一助となると考えられる。また、自由画教育運動など、長野県を発生地として全国的に派生していった教育運動について検討するための視座を形成したと言える。

研究成果の概要(英文)：A survey of workshops for art teacher training held in Nagano Prefecture before World War II confirmed that these workshops were held in a top-down fashion during the Meiji era to disseminate and promote methods and ideas in art education, but from around the Taisho era they became a place where teachers could study independently of each other. In particular, I clarified the specifics of the workshops held with Tsuruzo Ishii as the instructor and the people involved in them. In addition, through an examination of "Drawing and Handicrafts Education by Elementary Schools Association's Subject Research Conference in Nagano Prefecture" held during the Taisho era, the relationship between artistic thought and art educational thought was specifically verified.

研究分野：美術教育学

キーワード：美術教員研修 長野県 白樺派教員 石井鶴三 長野県内小学校聯合教科研究会 田原幸三 彫塑講習会

科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

### 1. 研究開始当初の背景

本研究は、大正期から昭和初期にかけて、長野県の教員たちによって開催された美術教育に関わる研修・研究会を調査対象として、そうした会の開催経緯や、開催に関わった人物、そこでなされた活動や議論を明らかにし、当該時期において、美術教師たちの美術教育思想形成がどのようにしてなされたか、ということ明らかにしようとするものである。

長野県的美術教育史研究としては、大正期に山本鼎を中心として展開された自由画教育運動を中心に、多くの研究の積み上げがあり、山本を中心として、当時の周辺人物についての研究も多い。しかしながら、日本全国的な影響を持った自由画教育運動の発祥の地として論じられることが多く、必ずしも地方美術教育史としての研究の積み上げがあるとは言いがたい。それは例えば、自由画教育以前の美術教育活動や思想について十分に検証されておらず、それらが自由画教育にどのように接続されたのかということや、また、自由画教育運動以降の長野県的美術教育の展開についても未だ不明なところが多いということからも窺える。

そこで本研究では、具体的な長野県的美術教師たちに注目し、検討を加えるために、当時長野県において開催されていた教員による研修会に注目することとした。それらの研究会については、一部、教育会などの支援を得ながらも、基本的には教員たちの自主的な意識によって開催されていたことから、その開催に関わった人物たちや開催経緯などについて調査することによって、美術教育を取り巻く人的関係や当時の開催に至る問題意識について理解することができると考えた。また、研究会において発表される意見や交わされる議論は、教員個々の私的な問題意識や教育思想に接近するための資料となると考えられる。

### 2. 研究の目的

上記した通り、本研究の目的は、大正期から昭和初期にかけての長野県的美術教員による研修を検討材料として美術教育に関わる教員人脈の確認や具体的な開催経緯などを明らかにするとともに、そこでなされた研修や議論を手がかりに、往時の美術教師たちの教育思想の形成やその性質について明らかとすることである。

より具体的には、当時の長野県において行われた美術教育講習会の整理と、そこにおける人的交流の解明。具体的な教員研修についての開催経緯等の解明と、議論についての検討。戦後の長野県的美術教員研修組織である「長野県美術教育研究会」設立背景についての検討を行う。それによって、実証的に長野県的美術教育史、教員史について示すことを目的とする。

### 3. 研究の方法

上記した研究対象についての文献研究を行う。書簡、雑誌掲載論文、会議・講習会の記録について発掘、収集するとともに、それらについての分析、検討を重ねる。

### 4. 研究成果

関係資料より、戦前の長野県美術教員研修についてそのあらましを明らかにするとともに、特に、石井鶴三を講師として長野県各所で開催された教員講習会についての実態解明、考察を行った。中でも、伊那彫塑講習会及び、長野市においてなされた絵画及び彫塑講習会については、次の事柄を明らかにした。

伊那彫塑講習会は、石井鶴三を講師として、昭和3年から6年にかけて開催された教員向け彫塑講習会である。本講習会について、当時の上伊那郡の教師たちが石井に宛てた講師依頼や講習会の日程調整に関わる書簡資料を手掛かりとして、その開催から終焉までのあらましについて明らかとした。本講習会に関しては、上伊那地区の多くの美術教員が関わっていたことや、同地域的美術教育の中心的人物たちがその開催に尽力した様子が明らかとなった。

長野市の講習会については、戦前より開催された長野彫塑講習会、長野絵画講習会と、戦後それらの研究会組織を母体として発足した、全県規模の美術教育研究会である長野県美術教育研究会について、それぞれの研究会において中心的役割を果たした、長野県師範学校附属小学校訓導、長野師範学校教官、信州大学教育学部の教官を務め、戦前から戦後にかけて長野県美術教育界の指導的立場にあった美術教師、田原幸三を中心に検証、検討した。田原については、石井との関わりの中で、上記研究会の設立がなされたことや、田原の美術科、美術教師としての意識が形成されていくことを明らかにした。また、長野市の講習会開催にあたっては、当時長野市内の柳町尋小学校校長職にあった小原福治による尽力があったことが明らかとなった。

これらの研究によって、戦前の教員研修が、初期は、東京高等師範関係者や、師範学校の教師を講師とした、上意下達式のものであったのが、明治後期から大正期にかけて、教員相互による自主研修へと移行していく様が明らかとなった。また、そうした美術教師による自主的な講習会開催の背景には、後見として校長職や教育会において然るべき地位を占める、一世代上の教員たちが関わっており、それらの教員の多くは哲学研究会やキリスト教研究会などの活動に関与しており、そのような先駆的教師たちの影響が、美術教員研修に見られることがわかった。

また、研究の過程において、長野県師範学校附属小学校が主催した小学校聯合教科研究会のう

ち、大正4年(1915年)に開催された図画手工研究会の記録冊子である『長野県内小学校聯合教科研究会図画手工研究録』を入手した。本研究会については、当時の白樺派教師たちの美術教育思想が反映されていることや、その後の長野県での自由画教育運動の盛り上がりにつながる教育思想の萌芽となったというような予測に基づいた言及が、いくつかの先行する研究においてなされているが、具体的な検証についてはなされていなかった。そこで、本研究会の長野県美術教育史上の位置付けについて明確にするとともに、そこに現れた美術教育思想について検討を行った。それによって、新定画帖の長野県における受容の性格や、その際に、いわゆる白樺派教師たちが、彼らの信奉する芸術思想から、新定画帖そのものを批判することができたことを指摘した。また、鑑賞教育や写生教育といった先駆的な美術教育実践の主張がなされていることが明らかとなった。

感染症流行に伴う行動規制や資料館の休館などが重なったため、当初予定していた調査の幾つかの実施が叶わず、大正後期から昭和期にかけて十分に研究を深めることができなかった。一方で、当初の研究対象としてない資料の入手などがあり、大正期までの、特に白樺派教師たちを中心とした美術教育思想について従前なされていなかった具体的事象に基づく指摘を行うことができたとともに、戦前期の長野県美術教育研究がどのような教員人脈によって支えられていたのかということや、その思想的背景について捕捉することができた。これらの研究を足掛かりとして、今後は、現在未着手となっている期間についての継続した調査、研究を行っていく。

## 5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計3件（うち査読付論文 1件/うち国際共著 0件/うちオープンアクセス 3件）

1. 著者名 大島賢一	4. 巻 10
2. 論文標題 【報告】石井鶴三宛田原幸三書簡について	5. 発行年 2021年
3. 雑誌名 信州大学附属図書館研究	6. 最初と最後の頁 1-6
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大島 賢一	4. 巻 41
2. 論文標題 『長野県内小学校聯合教科研究会図画手工研究録』に見る教育的図画の受容と克服	5. 発行年 2020年
3. 雑誌名 美術教育学：美術科教育学会誌	6. 最初と最後の頁 33～44
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） 10.24455/aaej.41.0_33	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

1. 著者名 大島賢一	4. 巻 8
2. 論文標題 信州大学所蔵石井鶴三関連資料にみる伊那彫塑講習会のあらし【報告】	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 『信州大学附属図書館研究』	6. 最初と最後の頁 1-11
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 無
オープンアクセス オープンアクセスとしている（また、その予定である）	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件/うち国際学会 0件）

1. 発表者名 大島賢一
2. 発表標題 『長野県内小学校聯合教科研究会図画手工研究録』に見る白樺派教師の美術教育思想
3. 学会等名 美術科教育学会第41回大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計0件

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------